



# 上川井だより

令和3年4月30日  
横浜市立上川井小学校  
校長 山崎真紀子

## 5月号

### どちらの「ふかい」

風薫る爽やかな季節となりました。校庭の鳥たちのさえずりが、自粛生活で小さく固まった心を解きほぐしてくれます。保護者の皆様、地域の皆様も日々ご苦勞を重ねていらっしゃると思います。

いつもと違う1年が過ぎ、また今年も新たな生活様式の中で学校生活がスタートしました。子どもたちの学校生活が安心して楽しい毎日となるよう、今年度も工夫しながら教育活動を進めて参りたいと思います。どうぞご理解・ご協力をお願いいたします。

先日、3年生が国語辞典の使い方を学習していました。先生から「ふかい」という言葉が示されると、すぐにあちこちから「あった。」「見つけた。」と、うれしそうな声が上がります。「あれ？2つ指さしている人がいますよ。」と担任が投げかけると、「ほんとだ。2つある。どっちかなあ。」子どもたちは、それぞれ考えを巡らせて、正解を探そうとしています。『「ふかい」という言葉は、1つではないんだ。』『へえ。同じ音でも違う意味の言葉があるのか。』言葉を調べて、同音異義語があったときにはどうしたらよいか、話し合っていました。

同音異義語だけでなく、1つの言葉にいくつもの意味や使い方がある多義語もあります。例えば、「かける」「あげる」などがそれに当たるとでしょう。辞典を使って言葉を調べるときには、どの意味が自分の調べている文にあてはまるのか考えないと役に立ちません。辞書で調べたい言葉にたどり着いても、どの意味で使われているか考え、選ぶのは、子どもたち自身なのです。

調べる前に同音異義語や多義語があることを教えるのではなく、自分たちで課題を発見し、考え、答えを導き出すことで、言葉の面白さや「もっと調べたい。」という意欲を引き出しながら、辞書の使い方を学ばせていました。

子どもたち自身の「あれ、どうしてかな。」「どうしたらいいのかな。」という課題意識を大切に、互いの考えを交流し合って結論を導き出していくことは、簡単ではありませんが、とても大切だと考えています。とかく、親切に手を出し、口を出してしまいがちですが、それでは子どもは育ちません。やってくれるのなら自分でなくてもいい、答えを教えてくれるのなら答えを考える必要は無い、そうなるのは大人も同じですね。インターネットの普及によって、調べたつもり、わかったつもりになりがちな毎日ですが、子どもたちの考える力を大切に育ていけるように学びの種蒔きをしていきたいと思っています。「上小の子はかんがえる子」をめざし、子ども自身が考え、試行錯誤し、問題を解決する場面を大切にしていきたいです。

折しも生活場面では、新型コロナウイルス感染症の脅威にさらされ、どう行動すべきか一人一人の判断が感染の拡大・抑制の大きな鍵となっています。楽しみにしていたGW。わたしたち大人の考える力が試されていると感じています。私自身、周囲を「ふかい」にさせないよう行動し、日常の小さな自然の中に「ふかい」幸せを感じながら、ゆったりとした休日を過ごしたいと思います。